

自然を生かした体験学習 キッズチャレンジ2015

11月28日から2日間、さかもと八竜天文台や八竜自然公園で「キッズチャレンジ2015」が開催され、市内の4〜6年の小学生20人が参加しました。

これは、野外活動を行う中で、協力しながらの生活体験や自然体験を通し、新しい仲間づくりなど青少年の健全育成を図ること



▲仰向けになり説明を受ける子どもたち

とを目的に開催されました。

今回は、八竜山登山や太陽・天体観測、望遠鏡作りなどが行われました。天体観測では、さかもと八竜天文台の橋本建司館長の指導の下、カシオペア座の方向にあり映画のキャラクターに例えた「E.T.星団」や月などを観測。プラネタリウムでは、同館長が星一つ一つを問題形式で説明すると、子どもたちは興味深そうに質問をしていました。

松高小学校4年の山口颯杜くんは「宇宙の巨大さを感じるとともに、宇宙の神秘を知ることができた」と語りました。

自然の力で室温ダウン やつしろ緑のカーテンコンテスト



▲今年は3部門で10作品が受賞しました

本年度で4回目となる「やつしろ緑のカーテンコンテスト」の表彰式が11月20日、市役所で行われ、中村市長が入賞者に表彰状を授与しました。

同コンテストは、夏の省エネや節電対策、地球温暖化防止の一つとして、誰もが簡単に楽しみながら実践できる「緑のカーテン」の普及を目指して市が実施しています。市民・学校・団体の3部門に分かれており、選考会では、生育状況や効果、工夫した点やアピールしたい点、取組状況などの項目を審査・評価されました。

最優秀賞に選ばれたのは、平田裕子さん（個人）、八千把小学校4年生（学校）、ヤマハ熊本プロダクツ（団体）です。

中村市長は「周囲の人にも緑のカーテンの魅力を広げてください」と話しました。

神幸行列に歓声 八代妙見祭



▲砥崎河原で観客を魅了する亀蛇

八代妙見祭のメイン行事である「お上り」が11月23日に行われ、神幸行列が塩屋八幡宮から八代神社までの道のり約6kmを練り歩きました。

塩屋八幡宮を出発した行列は、やつしろハーモニーホールや八代駅前を経由し、八代神社へ向け進行。砥崎河原では多くの観衆が見守る中、獅子から順に演舞を披露しました。亀蛇の演舞や飾馬が河原を駆けると、観客から大きな歓声が送られ、会場は盛り上がりました。

神幸行事の「お上り」は国指定重要無形民俗文化財に指定されており、2016年にユネスコの無形文化遺産の「山・鉾・屋台行事」への登録を目指しています。

部材の価値を再発見 妙見祭笠鉾組立見学ツアー



▲組み立て中の傘鉾を前に説明を行うガイド

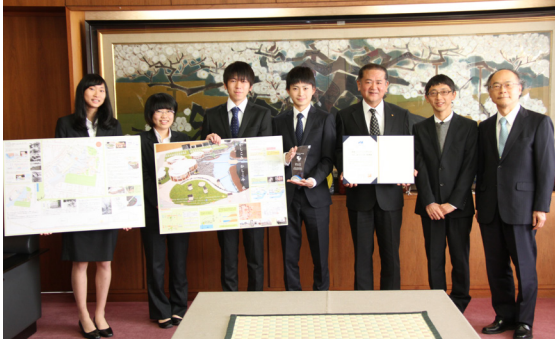
11月22日、笠鉾奉納町内で一斉に行われる妙見祭の笠鉾組み立てを、妙見祭ガイド講座受講生の説明を聞きながら見学して回る「妙見祭笠鉾組立見学ツアー」が行われ、受講生30人と一般参加の20人が3班に分かれて見学しました。

笠鉾は、釘を1本も使わず、各部材を立体パズルのように決められた箇所にはめ込んで完成します。各町内の組み手が200程の部材を一つ一つ確認しながら組み立てていくようすを、参加者は近くまで歩み寄って観察していました。

今回初めて妙見祭のガイド体験をした坂本町出身の中田朗さん（上日置町）は「八代の力をもっと集結して、ユネスコ登録に向け世界にPRすることができたらと思います」と話しました。

2年連続日本一

デザコン2015空間デザイン部門で最優秀賞



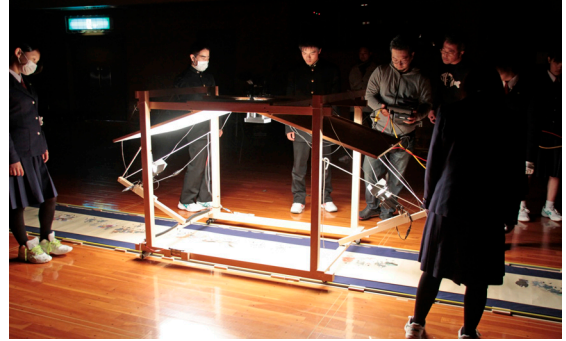
▲左から許斐さん、島田さん、井島君、元嶋君、中村市長、森山学准教授、長谷川勉校長

11月14日・15日に開催された「デザコン2015 in 紀の国わかやま」で、2年連続で最優秀賞を受賞し日本一に輝いた熊本高専八代キャンパス建築社会デザイン工学科4年生が、12月7日に市役所を訪れ、中村市長に報告をしました。

デザコンは、プログラムを競うプロコンやロボコンと並ぶ全国高専生が目標としているデザインを競う大会です。今回は「地域強靱化のための道の駅」をテーマに全国から139作品の応募がありました。チームメンバーは元嶋太一君、井島拓也君、許斐ももこさん、島田景冬さんの4人。リーダーの元嶋君は「地域の歴史を詳しく調べたことがコンペの勝ち残りにつながりました」と話しました。

貴重な文化財を映像に残す

妙見宮祭礼絵巻映像化



▲照明を落とし、台車に載せられた明かりのみで、慎重に撮影を進めるテレビつしろのスタッフと八代工業高校の生徒

八代妙見祭神幸行列が描かれた祭礼絵巻を高画質映像で保存するため、12月2日、市総合体育館で八代工業高校（インテリア科・機械科）の生徒7人とテレビつしろのスタッフなどが撮影を行いました。

これは八代妙見祭保存振興会がユネスコの無形文化遺産登録を目指したさまざまなイベントに活用するため、撮影をテレビつしろに委託し、カメラ移動のための台車やレールの製作協力を八代工業高校に呼びかけて実現したものです。

撮影には高画質の4Kカメラが使用され、下書きの絵巻4巻と、江戸時代の神幸行列が色鮮やかに細かく描写された絵巻（長さ40m幅50cm）の撮影が行われました。

冬の風物詩

晩白柚風呂



▲晩白柚風呂を楽しむ地元住民

晩白柚の収穫が最盛期のこの時期に、日奈久温泉では湯船に晩白柚を浮かべる晩白柚風呂が開催されます。今年は日奈久温泉の12施設で1月末まで開催されています。今年で16回目。

12月11日には、日奈久温泉旅館金波楼で地元住民の皆さんを招待して、関係者向けに撮影会が行われました。プカプカ浮いている大きな晩白柚に、子どもたちは大はしゃぎ。風呂場内は晩白柚のさわやかな香りに包まれていました。

主催者の日奈久温泉旅館組合長で同旅館専務の松本啓佑さんは「八代の特産品である晩白柚と日奈久温泉を楽しんでいただき、これを契機に温泉の良さをPRしていきたい」と話しました。

21年ぶりに開催

新市誕生10周年記念 大相撲八代場所



▲宮内の力押しに会場も沸いた

12月9日、市総合体育館で「新市誕生10周年記念大相撲八代場所」が開催され、生で見る力士の迫力に市内外からの観客約3300人が息をのみました。

取組は序二段から幕内までの54番が行われました。三段目九十二枚目の宮内祐希さん（八代四中出身）が土俵に上がると、ひととき大きな歓声が上がります。宮内さんは見事に白星を挙げました。

また、「八千把クラブ」所属の小中学生と力士の稽古では、軽々と持ち上げられて振り回される子どもや上手く回り込んで力士を押し出す子どもなどがいて、場内は大いに盛り上がりました。

八千把小5年の藤元康生君は「力士はすごく大きかった。いつか勝てるようになりたい」と目を輝かせました。



生涯スポーツ優良団体として表彰



▲八代校区体育協会の吉村豊美会長（右から3番目）と関係者

文部科学省生涯スポーツ優良団体表彰を受けた八代校区体育協会の吉村豊美会長ら3人が11月17日に市役所を訪れ、中村市長に受賞の報告をしました。

この表彰は、地域などでスポーツの普及・発展に貢献し、スポーツ振興に顕著な成果をあげた団体を表彰するものです。同体育協会は、年間を通してスポーツ大会などを開催するとともに、「歩こう会」を発足して校区民の体力向上・健康増進を図ることで、校区民相互の交流を深めることにもつながっていることが評価されました。

市環境センター建設工事安全祈願祭



▲初初儀を行う中村市長

新たなごみ処理施設「市環境センター」建設工事の安全祈願祭が、11月19日に港町の建設予定地で行われ、受注したグループ構成企業代表である日立造船の谷所敬代表取締役社長ら関係者70人が出席しました。

すでに用地の造成に取りかかっており、平成28年4月から建屋工事に着手。平成30年4月の稼働を目指しています。

中村市長は「長年の課題でしたが、地域住民や漁協の皆さんのご協力で着工できることになりました」とあいさつしました。

うがい用お茶の贈呈



▲贈呈に訪れた上田会長（右から3番目）と関係者

泉町茶業振興協議会の上田精一会長らが11月16日、市役所を訪れ、市内児童生徒や園児たちのうがい用お茶200kg（1袋500g入り400本）を市へ贈呈しました。

お茶に含まれるカテキンは、口内雑菌の繁殖を抑える効果や抗ウイルス作用を有しているといわれていることから、むし歯予防やインフルエンザ対策のうがい用お茶として毎年配布されています。今回で4回目の贈呈になります。

上田会長は「泉のお茶でうがいをして強い体をつくってほしい」と話しました。

厚生労働大臣表彰伝達式



▲受賞した関係者の皆さん

12月11日、市役所で「平成27年度ボランティア功労者に対する厚生労働大臣表彰伝達式」が行われ、個人と1団体に中村市長が表彰状を授与しました。

受賞した迎町の村井尚さん（個人）は、30年以上にわたり聴覚障がい者のコミュニケーション支援活動などを積極的に続けており、また、県手話サークルわかぎ（団体）は、昭和50年から主に手話通訳活動を行い、ろう者協議会など障がい者団体への支援にも努力していることなどの功績が認められ、今回の表彰となりました。

中島町町内会 衣装も新たに奉納



▲新調した衣装を着て、八代駅前披露

国指定重要無形民俗文化財「八代妙見祭の神幸行事」の出し物の一つである笠鉾「蜜柑」の衣装一式が、自治総合センターの宝くじ助成事業の補助事業を受けて新調され、11月23日に初お披露目となりました。

笠鉾「蜜柑」は9つある笠鉾の一つで、八代城下町の中島町から出されています。宮部光輝町内会長は「少子高齢化が進むなか、今回の助成を受けて高価な祭り衣装の整備ができました。今後も伝統を継承しながら、立派な奉納ができるよう頑張ってください」と語りました。

防災向けプロパンガス発電機の受贈式



▲贈呈式に出席した八代市プロパンガス協同組合の関係者

八代市プロパンガス協同組合から「防災向けプロパンガス発電機」が昨年に引き続き、市に寄贈されることになり、11月17日に前田満洋代表理事らが中村市長に目録を手渡しました。

寄贈された発電機は、燃料にプロパンガスを使用することから、燃料の劣化によるエンジン始動不良や運転不調がないのが特徴です。今回寄贈された発電機は、災害時の指定緊急避難場所である太田郷公民館に設置されます。

前田代表理事は「災害時には力を発揮できると思う」と話しました。